



Women Artists Association

NEWS

女流画家協会
会報

2022.12 Vol.13



新事務所紹介

新事務所より

事務所代表 中村智恵美



出品者の皆様と当協会にご理解ご協力頂いている皆様のご尽力により、第75回記念展は6月13日に盛況のうちに終了致しました。女流画家協会事務所は9月より会計以下の人事を一新し第76回展に向け準備作業に追われております。普段からの制作の苦勞に加え、絵を描く事が人生の何たるかを考えさせるコロナ禍期間が既に3年となります。先の見えない長い自粛への不安。作品への影響とご心中は計り知れませんが、困難をただ嘆くばかりでは、終わりは見えません。通常のペースでなくとも、作品を制作し発表の場を持つことを有難い事と実感しております。無理なく柔軟に対処し、手を取り合いこの時期を楽しみながら乗り

越える事こそ団体のなすべき事と考えます。女流画家協会はこれからも知恵と行動力で出品者の皆様と共に進んで参ります。

会計（支出）

徳中壽子



いよいよ新事務所として出発しました。ベテランの中村先生をはじめ、それぞれが力を発揮して取り組んでおります。昨年引き続きのたまプラーザ展、新たな京都展、そして何より第76回展が無事に成功裏に終了しますことを願っております。コロナのまだ収束しない今、たゆまぬ努力を惜しまず制作に邁進する女流画家たちのために持てる力を尽くしたいと思います。至らぬ点はご容赦ください。

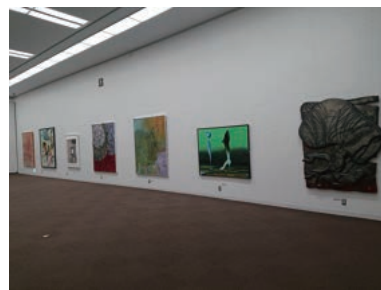
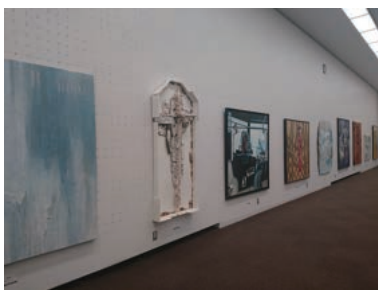
会計（収入）

柴野純子



この度、収入係を担当させて頂くことになりました。想像していた会計の仕事とはかなり違い、まだ全貌も掴めないままに仕事を始めております。その為、周りからサポートを頂かないとスムーズに仕事が出来ません。前任者、中嶋しい委員の懇切丁寧な参考資料に助けられ、事務所代表の中村智恵美委員や支出係の徳中壽子委員に支えられながらの船出です。至らない事ばかりでございますが、何卒温かい目でご協力をお願い申し上げます。

第75回記念展 会場風景



ワークショップ（ワイヤーアートI） 6月10日（金）担当：八木芳子・黒沢裕子



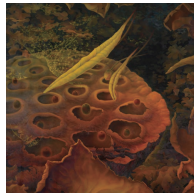
第 75 回記念展受賞者の声

※連続掲載になる方は今回ご遠慮頂きました。

【会員】

【女流画家協会賞】 すずきふみえ

私にとって描くことはアドベンチャーな旅とよく似ていると思っています。心の内に潜む心象映像が彷徨いはじめる。どこにどのような気に入った空間があるのだろうか？そこにはどうやったら行けるのだろうか？行ってみたら見つけるまで探さずにはいかない。絵筆は絵の画面と自身の内面をいったり来たり。内にあるテーマをひっくり返してみたり、埋めて見えなくしてみたり、見えないけど見えるようにしてみたり、自分なりの表現の旅は、つまづきながら行ったり来たりしながら進みます。最終的にはそのやりとりが画面に置き換わって旅は終わります。そして又、新たな旅に出かけます。



【葦崎大村美術館賞】

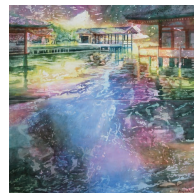
狩野三世子（新委員）

この度は葦崎大村美術館賞を頂き誠にありがとうございました。10年程前から『水の庭』というテーマで油彩作品を制作しています。毎朝水辺を散歩しながら感じたもの、風や鳥の声、羽ばたき、植物たちの表情、漣、波紋などを描き留めたいという思いから始まりましたが、いつのころからか『水の庭』は私の心の中にあり、その深い底で宇宙と繋がっていると感じるようになりました。ここまで制作を継続できたことに、ご指導頂いた諸先生方、お世話になった研究会の皆様、仲間たちに心より感謝申し上げます。今回の受賞は私にとって大きな節目、そんな気がしております。これからはもう逃げることはできない、腰を据えて行こう、などと気構えております。そしてこれからは今までお世話になるばかりでしたが、女流画家協会のために微力ではありますが恩返しができるよう努めたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



【水野恭子賞】 酒井佳津子

初入選の作品は F40 号の水彩画の『ガラスのコンポート』でした。その頃は透明なガラスやステンレスに映り込む様々な美しい色彩に魅せられ表現することに楽しみを感じ描いていました。また家庭の象徴としての椅子をテーマに随分と独りよがりな絵を思いの向くまま描いたり、私の勝手な思い込みの作品にも女流画家協会は懐の深い度量で作家として見守り育てて下さいました。2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ事件をきっかけに私の関心事は社会にも向けられて行き、それから自然の光の中にも人生の悲哀を感じ日の出や夕陽に感動し描いて参りました。いつも私の自由な作品制作の姿勢を応援し支えて下さいました事をこの上ない幸せと感じて居ります。この第75回女流画家協会展にて、名誉ある賞を頂きましたことを感謝し更なる高見を目指して努力して行きたいと思っております。



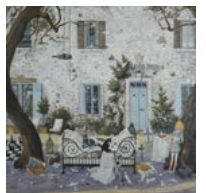
【上野の森美術館賞】 菊地史津（新委員）

この度は上野の森美術館賞をありがとうございました。かつて上野の森美術館アートスクールで学んだ経緯があり、この受賞は感慨深いです。夫を癌で亡くし子供にも手が掛からなくなったのを機に幼い頃より好きであった絵を学びたく受講しました。女流展初出品も都美術館の改修工事の為、上野の森美術館で女流展が開催された年でした。その時はS50号に柘榴を描きました。その後も林檎や無花果などの果実をモチーフに描いてきましたがドラゴンフルーツに出会いその色に形に魅了され今に至りました。画面に小さく人間を入れる事でドラゴンフルーツが巨大になり、私達は相対的に物を捉えている事が鮮明になりました。人間を入れるにあたっては若い人に注目しています。会話が聞こえてくるような画面になるようにと。暗くなりがちな現在ですがそんな日々でも明るく生きてほしいという願いを込めて。



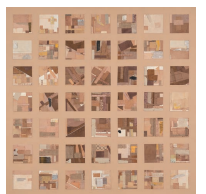
【岡田節子賞】 齋藤由比

来たこともないのに記憶がある、初めて会う人なのに、その人との会話を覚えている…。デジャヴ。フランス語でデジャ（すでに）、ヴュ（見た）…既視現象です。私には幾度も経験があり、今回、岡田節子賞をいただいた作品のタイトルにしました。錯覚とも言えず、脳内の交通整理の混乱なのでしょう。岡田節子さんにお会いすることはできませんでしたが、賞を通じてご縁を感じることができるとうれしく思います。ありがとうございました。



【前田さなみ賞】 船津多加子（新委員）

第21回展に初出品した時の緊張感と感激は、今も変わらず続いています。今回出品しました「工場」は毎日散歩してるコースに工場現場があります。広い平面に基礎が打ち込まれ予測出来ない程の機材や記号の組み込まれた工材等、幾何学的な様相は秩序正しく組み込まれ、現場は創造でいっぱいになります。毎日変化を繰り返し、そんな楽しみな現場の光景を私なりに描いてみました。



【原光子賞】 小椋恵子（新委員）

コロナ禍の中、無事第75回女流画家協会展を開催出来ました。事務局の皆様、改めて謝意を表したいと思います。今回、大学の恩師である「原光子賞」を頂き感無量でした。世界的パンデミックにより様々な事が、変則的となりました。ただホームステイの中、少し雑念から解放され、自由な試作も手が付けられました。それが、これからどう生かしていかけるかは分かりませんが、失敗を恐れず、楽しめたらと思っております。毎年女流の皆様への出品作品を拝見して、その多様性と柔軟性に刺激を受けています。終止符のみえない多難な時代ですが、前を向いて制作していきたいと思っております。



【糸田玲子賞】

鳥居隆子（新委員）



戦後間もない昭和22年。11名の創立者によって女流画家協会が発足。会派を越え切磋琢磨する場、表現者として自己解放の場として女性が作品を制作し続ける事は、周囲の理解は勿論、大変な事。長年生活と制作に取り組み続けてきた諸先輩方に敬意を表したいと思えます。女流画家協会の一員として初めて参加させて頂いた時、丁度二人の母の介護の真最中でしたが、短時間でも逆に制作に打ち込んでいました。そして東京に行ける事が息抜きになっていました。しかしその後母を見送った後、何か喪失感が襲い、コロナ禍も影響して何も手につかず、一日を過ごしていたように思えます。これではダメだと何回も自分に言い聞かせて、やっと自分らしく這い上がれるようになってきました。続ける事の大切さが分かってきたようです。家族の協力のもと、75周年に糸田玲子賞というステキな賞を頂きありがとうございます。これからめげずに前進して行きたいと思えます。



【東京新聞賞】

山口たか子（新委員）



この数十年来、頻りに地球の破滅を思わせる様な、至る所での自然災害や悲惨な戦争、先の見えない伝染病との日々の葛藤「嫌だな」勿論明るい話題も沢山ありますが…私は、現在のテーマとして、鎮魂歌（全てのものに安らぎを）、天空からの声！を制作中「奮闘中です」その中で現代を象徴するものとして、生と死・善と悪・虚と実・明と暗・等々。相反する情景が創作の原点です。悪しきものが、浄化されて善きものに化していくことに願いを込めて日々キャンパスにむかっています。これから、既成概念に囚われず、感じたままを素直に描き、制作を重ねて、又新たな課題の増幅を願って精進し、自己研鑽していきたいと思っております。自然を慈しみ、人間愛を持ちながら…



【会員賞】

後藤静子（新委員）



この度は会員賞を受賞することが出来て、大変嬉しい事でした。もう、十年以上、空をテーマに描いています。空は具象の様でもあり、抽象の様でもあり、広い広い無限の世界です。限りなく多彩の空をバックに、雲が自由に行き交います。刻一刻、変貌する姿、どの部分を作品にするかと思ひながら、構図を考えます。感動、静寂、明と暗、あらゆる要素を持っている、このテーマに出会えた事を大変有難く思っています。まだまだですが、少しでも、自分で納得出来る作品が描ける様に、努力を重ねて参ります。



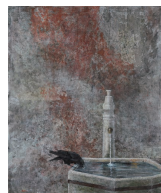
【一般】

【大村文子記念賞】

木原由美子

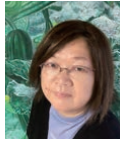


この度は、大村文子記念賞をいただきありがとうございます。初めての出品で、この様な名誉ある賞をいただいたことにびっくりしました。そして、とても嬉しく思っています。創元会・千葉美術会・千葉市美術協会に所属して、ここ十年位は壁を中心に描いています。友人に勧められて、女流画家協会展に出品しようと思ったものの、何を描こうかと考えていました。そんな時都の美術館帰り、上野公園の水盤（カエルが水を噴き出している）のところで、カラスがボンと飛び降りて来ました。びっくりして見ていると、水を飲み始めたのです。やっと写真を一枚撮りました。これが今回のモチーフです。幸せを運んでくれた（カラス）、しばらく付き合ってもらいたいと思っております。これからもよろしくお願ひ致します。

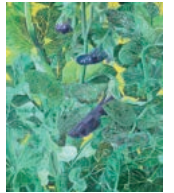


【野中伊久枝賞】

中間淑子（新委員）



葉脈のモチーフも12作目ともなると何を描いたら良いのかわからなくなります。初期の頃は楽しく描いていたのにだんだん行き詰まり描くことが苦しくなります。来る日も来る日も朝から晩まで描き続けているのに一向に仕上がった感がしてこないのです。葉脈を細くしたり太くしてみたり葉っぱの重なりを逆にしたり大小を変えたり、画材の変更、色と明暗の付け方、等々、試行錯誤を繰り返す苦しい毎日。そんなある日ようやく絵がむくむくと起き上がってきました。これからはやると本番なのです。果たして搬入日までに完成するのだろうかという不安との戦い。さらに続く試行錯誤。搬入日に業者さんが来てくださるまでずっと描き続けていました。こんな状態での制作でしたので受賞の電話を頂いたときには思いもしていなかった事にびっくりしてスゴク嬉しかったです。ここまで来れたのは委員の先生方の親身なご指導のおかげです。また、応援して下さった友人、家族にも感謝です。これからもいい絵が描けるよう努力をして参りますのでよろしくお願い致します。

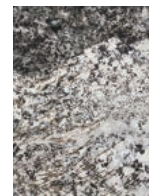


【日本美術商事賞】

金井隆子（新委員）



マチエールのベースは、和紙です。元は書紙です。光を通す程薄い、手漉き和紙、機械すき等、そのしなやかな和紙に潜む生命感、手触りの心地良さ、思わぬ表情の出現、質形の妙味、絵肌の面白さです。殊に惹かれますのは凹凸からみえてくるあの種の触覚的刺激に魅せられます。一方で「書」の指導を受けつつ、そこで生み出される「反故紙」の「やま」から創作のエネルギーを頂いております。何とか「変容」に結実出来る様に、面白がられる想いを大事に、愉しめる心を大切に、自分らしい創作が出来る様「小自在」の思いで進んで参ります。



【会員賞】

白藤さえ子（新委員）



私は、学校で美術を教えながら、そして5歳の男の子を育てながら絵を描いています。普段は早朝の1時間が制作時間です。常に時間に追われるため、時に挫けそうになることもあります。しかし、私はこの生活を大いに楽しんでます。なぜなら、息子や学生たちの目を通して見える世界が、そして彼らが表現するものが、この上なく新鮮でワクワクするからです。何より、彼らの溢れんばかりのチャレンジ精神が、私に新たな作風や画材に挑戦する勇気をくれるからです。だから、年々描くことがドンドン面白くなっています。未来の自分が「今」をどう肥やしにして、どう絵に表しているか、今からとても楽しみです！

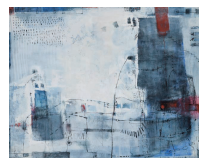


【マツダA賞】

三輪幸子（新会員）



この度は会員に推挙していただき大変嬉しく思っております。私の作品は抽象画のため、色面構成、マチエールなどの果たす役割がとても大きいと感じていて、またそれらが私の表現の重要な要素となっています。制作を進めている途中で、自分がこのキャンパスに何を表現しようとしているのか、迷いが生まれ自信を失い、筆が進まなくなる事が度々起きます。その暗いトンネルの中でも、ひたすら筆を動かしていると、ある時「よし、これでいける！」という確信が生まれ、自分に納得満足できるのです。その瞬間の喜びこそ、私が絵を描き続けていくエネルギーとなっているのでしょうか。これからも自分を鼓舞しつつ自分の中にある世界、景色を表現できるよう、筆を握ってキャンパスに向かい続けてゆこうと思えます。



【マツダ B 賞】

小川敬子

この度はマツダ B 賞をいただきありがとうございます。ここ数年間賞候補が続いてもう一歩がなかなか抜け出せなかったのが本当に嬉しく思いました。女流画家協会展でたくさん勉強させていただきそして励ましていただき今まで描き続けることができました。私は描くときは何も考えずに無の状態を心がけています。年を経るにしたがって、それが益々面白く感じる様になり年をとるのも悪くないと思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。



【トークロ・東美賞】

小野木たみ子

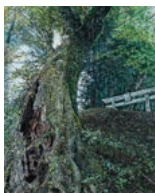
女流の研究会は、月一回、ゲストの先生のお話があります。女性という立場で、困難を乗り越え、制作を続けるという事、一途に信念を持ち、貫いて来た事、経験談、心情、心構え等、魅力あります。作品とお言葉が、オーバーラップして、心に響きます。ずっと続けていこうと、思いました。しかし、コロナ禍の中、家族の病、自身の体調不良と重なり貫く事の大変さ、理想と現実のギャップ、心折れそうになりました。この度、初めて賞をいただきました。描き続けた事は、無駄ではなかった、と思いました。キャンバス張りにはベストシーズンの梅雨期、地塗りをする時が、一番チムドンドンー
ありがとうございました。



【リキテックス賞】

高橋幸子

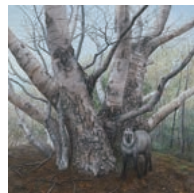
女流画家協会展のことを知ったのは、去年の夏でした。それまで地元の市展、県展等に出品してきましたが、全国規模の公募展に挑戦しようと思い、新潟市の雪梁舎美術館で開催される「雪梁舎フィレンツェ賞展」に出品し、入選することができました。表彰式で入賞、入選した人達が集まり喫茶室でお話しながら、「私のような絵の会派にも入らず、美大も出てなく師匠もいない者の絵も公平に審査してくれる公募展は、他にないですか」と相談したところ、一緒に入選した若い女性が「女流に出したらどうですか」と教えてくれました。絵の世界の話を知ると、審査員にごますりしたり鼻唄されないと賞は貰えないみたいな、本当か嘘かは判りませんが令和の世とは思えない世界のような事を耳にしますが、私のような一匹狼の絵描きの作品が初出品で賞を頂けるということは、女流画家協会の皆様が本当に公平な目で作品を審査して下さいました。私の住む町は新潟県の山奥の、冬には雪が数メートル降り積もる田舎です。過疎高齢化が進み滅びゆく町の、苔むして消えてゆく風景を今後も描いていきたいと思ひます。



【マルオカ賞】

池本幸子

この度は有難うございました。憧れの女流画家協会、勇気を出して初出品させて頂きました。入選発表までの不安な日々、そして嬉しい受賞！大変な刺激になりました。心機一転、立派な諸先生、先輩方を見習い大いに勉強させて頂き、気持ち新たに画業に専念して参ります。大作は長年木を描き続けてきました。老木の神秘さ、大樹の生命力、若い木の瑞々しさ等、木に魅せられその魅力を描き出せたらと努力しています。木と共に生きる動物も度々登場させてきました。私の好きな世界です。これからもこの世界に浸って描き続けたいと思っております。



【ラファエル賞】

大久保君子

明るくはじける声で授賞のお知らせ。一瞬わが耳を疑いました。観る人に「ぐわあ〜ん」という衝撃を感じて元気になってもらえるような絵を描きたいと思ひます。色の世界に入り込み無我夢中で描いてきた現在、この先どう展開してよいやら悩んでいるところでしたが、このたびの受賞で方向性が見えた気がします。これからは今まで以上に頑張りたいと思ひますので、今後ともよろしくお願い致します。



【ダーウエント A 賞】

藤目尚江

第 75 回展の作品は数年前、海外スケッチツアー一等のおり、参加して出会ったスペイン「アラゴンの風景」と「一筋の光 (祈り)」のスケッチより描いてみました。「一筋のひかり (祈り)」は私の心情を表現できればとの思いで描きました。みる人の心に何かを伝えられればとの思いです。これからも表現手段、表現方法等、水彩の奥の深さを模索しながら感動と心を癒してくれるそんな絵が描けたらいいのにな…と考えています。人にどう伝わるかを重点において精進して参りたいと思ひています。最後になりましたが、女流画家協会展へ出展させて頂いた動機は五年前展覧会場で新しい写実 (構成・色彩・技法・描くものへ込める精心において) を感じましたのでこれからは今に無いものの表現がしたく出品させて頂きました。



【ダーウエント B 賞】

高根澤栄子

今回、初出品で受賞させて頂きまして大変嬉しく感謝申し上げます。私は普段は看護師をしているので休日には絵を描くスタイルで絵を本格的にはじめて早 5 年になりました。絵画教室では同じ趣味の仲間がたくさんいるので心強く日々の潤いになっています。これからは素敵な仲間達と、長く楽しく続けられれば良いかなと思ひています。幼い頃から絵を描く事や自然が好きなので毎朝、雉が甲高い声で目覚まし代わりに起こしてくれるのが日課になり癒しとなっています。今回「蓮」を題材にしたのは神秘的な姿に魅了され遠方に写真を撮りに行ったり種から育てたりしてどっぷりとはまりました。今は種からかわいい浮葉が出ています。自分と照らし合わせ未熟でありますこれから大輪の花を咲かせられる様なスタートラインに立っている想いでいる所存でございますので今後共々よろしくお願い致します。

